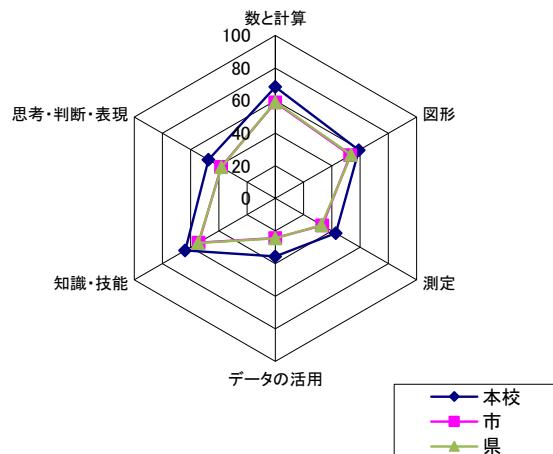


宇都宮市立瑞穂台小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.4	58.9	59.2
	図形	59.1	53.0	53.7
	測定	42.8	33.1	32.6
	データの活用	35.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	63.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	47.5	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>正答率は市平均を大きく上回る(+9.5ポイント)。</p> <p>○分数の大きさや小数の表し方の設問では、約9割の正答率で、おおむね理解できている。</p> <p>○3けたのたし算、2けた÷1けたのわり算は9割以上の正答率で、計算分野での無回答の児童も0%であった。</p> <p>●式の意味を正しく捉え、言葉で説明する設問の正答率は、2割から3割程度と低い。</p>	<p>・自分が何を求めているのかを意識させながら立式できるよう指導する。また、一つの考え方だけでなく、多様な考え方を出し合い、どのように求めたのかを説明したり文章で書いたりする活動を取り入れていく。</p>
図形	<p>正答率は市平均を大きく上回る(+6.1ポイント)。</p> <p>○二等辺三角形の性質を理解して図を選ぶ設問は、6割の正答率である。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形を作図できることを説明する設問の正答率が低く、5割程度である。</p>	<p>・コンパスの使い方について、円をかく道具だけでなく、長さを測り取る道具であることを算数的活動を通して理解できるようにする。</p> <p>・考え方を説明する設問に苦手意識が見られ、無回答が多くなるので、日常的に図形の操作活動や発表などの活動を授業に多く取り入れる。</p>
測定	<p>正答率は市平均を大きく上回る(+9.7ポイント)。</p> <p>○地図から道のりを読み取ってその和を求める設問の正答率は、市平均を上回る(1.5ポイント)。</p> <p>●はかりの読み取りの設問の正答率は、34.9%と低い。</p> <p>●重さの単位の理解や、時間と時刻の理解が4割程度で、無回答も2割である。</p>	<p>・重さや長さ、時間についての感覚を日常の学校生活の中で養っていくように、単元終了後も他教科の学習でも繰り返し指導する。</p> <p>・様々な単位の問題や発展的な問題に取り組ませ、単位の換算に慣れさせたり、必要な情報を正しく取捨選択して考えさせたりする機会を設ける。</p>
データの活用	<p>正答率は市平均を大きく上回る(+11.2ポイント)。</p> <p>○棒グラフを読み取る設問の正答率が、59.1%と市平均より大きく上回る(+11.3ポイント)。</p> <p>●棒グラフの特徴と利点を理解し、適切にグラフを選択したりその理由を説明したりする設問の正答率が15.2%と低く、無回答は4割であった。</p>	<p>・社会科や理科の学習と関連させ、様々なグラフを利用して、読み取りへの抵抗感をなくすようにする。</p> <p>・日頃から目盛りの違う複数のグラフを比較する活動を取り入れながら、正確な数値を読み取ることができるよう指導を継続していく。</p>